

イトゴケ *Neodicradiella pendula* (Sull.) W.R.Buck

【評価理由】

植物体は和名のように糸状で、溪谷の樹木の枝から垂れ下がる。このような懸垂性のセン類は湿度の高い環境の指標植物と考えられている。本種は愛知県では稀で、王滝溪谷、乳岩峡、亀淵峡から記録されているのみ。このような理由で、今回絶滅危惧 I A類に評価し、保護を図る必要がある。



豊田市王滝溪谷, 岩月善之助 No.20598.

【形態】

植物体は糸状で、溪谷沿いの樹木の枝から長く垂れ下がる。葉は卵状楕円形の基部から細く漸尖し、中肋は細いが、葉の中央以上に達する。葉身細胞は線形～長菱形、それぞれの細胞に2～4個の小さなパピラが1列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市王滝溪谷、新城市の乳岩峡、亀淵峡の3個所のみ。

【国内の分布】

本州以西に分布するが、稀。

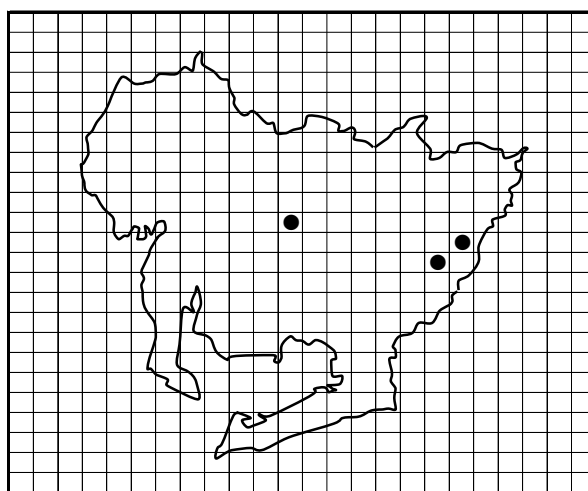
【世界の分布】

中国、北米南部、メキシコ、など。

【生育地の環境／生態的特性】

県内既知の産地は自然度の高い溪谷の樹木上である。林内湿度が高く、樹冠からの木洩れ日を利用する半陰光下の種である。

県内分布図



【現在の生育状況／減少の要因】

溪谷の溪流沿いの樹木から、糸状に垂れ下がる。本種は湿度の高い場所を好むので、樹木の伐採は禁物である。

【保全上の留意点】

林内環境の変化にも敏感であるため、その保全には細心の配慮が必要である。

【関連文献】

成田 務, 2005. 植物 5 蘚苔類 (1) 蘚類. 豊田市自然環境基礎調査報告書, pp.96-100. 豊田市.